

いることを実感した。

8月19日(金)車で大段ガ平へ移動し、神大ヒュッテを経て古生沼を目指す。

ツルアジサイ、ツリフネソウ、シナノキ、ブナ、ミズナラ、タニギキョウ、ツルリンドウ、ノリウツギ、ナナカマド、孵化したてのミヤマカラスアゲハ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、マルバフユイチゴ、ミズメ、コミネカエデ、イワガラミ、オオカメノキ、リョウブ、ユズリハ、エゾゼミが鳴く、オオイタヤメイゲツ、ミヤマタニソバ、ユキザサ、シラネワラビ、トチバニンジン、ヤマアジサイ、ヒュッテそばの水場ではタマガワホトトギスを見る。

ヒュッテをすぎると歩きやすい木製の歩道が続く。オオミズゴケ、トウゲシバ、ホツツジ、ツノハシバミ、ミズメ(幹は桜のようで枝を折るとサロメチールのようなにおいがした)、エゾノヨツバムグラ、ヤマソテツ、オオバショリマ、クサニワトコ、ナガバノモミジイチゴ、ヒカゲノカズラ、古千本沼ではアブラガヤ、ミズキ、オオミズゴケ、ヒメミズゴケ・・・。

古生沼では ヤチスゲ、マイヅルソウ、オトギリソウ、ツルリンドウ、エゾリンドウ、ノリウツギ、モウセンゴケ、ホツツジ、ノギラン・・・。

古生沼の周りにはシカよけの網があったが、それでも笹をかき分けてシカが侵入しているとのことであった。観察後、頂上で昼食をとり、希望者はこしき岩まで観察に出かけた。この道は以前の工事で石を組み、木の段があるのだが、排水が悪く、段差も険しくなっていて、とても歩きにくい道であった。この道を県は石を入れて整備する計画という。私は木製の歩道の方がよっぽど自然に優しく、景観の保全にも優れているように感じた。



その後、空模様が怪しくなり、下山を急いだが、途中で雷も鳴り、大粒の雨も降り出し、濡れながら、大段ガ平へ下山。解散した。

お世話下さった前田先生、盛谷先生、西村さんありがとうございました。

兵庫県生物学会第59回大会報告

日 時：2005年5月22日(日)

10:00~16:20

場 所：兵庫県立コウノトリの郷公園

参加者名：阪口正樹、宇那木隆、平畑政幸

杉田隆三、横山了爾、永吉照人、武田義明、白岩卓巳、奈島弘明、盛谷 浩、前田常雄、菅村定昌、吉田誠治、岸本正幸、田村 統、福原陽一郎、西村登、西垣志郎、山本一幸、高橋 匡、真野育三、中崎智子、上根大輔、矢頭卓児、林 美嗣、小嶋良平、後藤統一、稲葉一明、工義尚、井上清仁

日 程：1 受付 10:00~

2 フィールドワーク

祥雲寺地区内 10:30~

3 第59回総会 13:00~

(1) 開会の挨拶(但馬支部前田支部長)

(2) 会長挨拶(白岩会長)

(3) 来賓祝辞(県立コウノトリ公園白井副園長)

(4) 議長選出(真野育三、宇那木隆)

(5) 議事

①会長選挙結果報告

②2004年度会務報告.....承認

③2004年度会計報告.....一般会計、特別会計とも承認

④2005年度企画案.....承認

⑤2005年度予算案.....承認

⑥その他

60周年誌についての報告

(6) 2005年度(平成17年度)役員委嘱

(7) 研究奨励賞贈呈

山本 一幸氏(但馬支部)

4 記念講演 14:10~

講師：兵庫県立大学自然・環境科学研究所田園生態系 教授 兵庫県立コウノトリの郷公園 研究部長 池田 啓 氏

5 記念写真撮影 15:15~

6 研究奨励賞・研究発表 15:40~

7 閉会 16:50~



大会資料1 会長選挙結果報告 (後藤)

規定に則り選挙が行われ、昨年末までに4支部から白岩氏を推薦すると報告がありました。1月22日付けで選挙権を有する会員278名に投票用紙を郵送し、2月末締切で、3月3日に開票作業をしました。投票総数128票のうち、信任票128票。2005年度からの会長として白岩卓巳氏を決定しました。

大会資料2 2004年度(平成16年度)会務報告

2004年

- 『兵庫生物ニュース』No.59(2004.4.20 大会案内) No.60(6.6 大会報告) No.61(9.25 理事・役員会報告, 研究発表会案内, 会長選挙公示) No.62(2004.12.25 60周年記念誌 第8回研究発表会)
- 4. 3 第1回理事・役員会(神戸)
 - 4~5 タンポポ調査(人博鈴木先生のお世話になりました, 2005年調査の予備調査)
 - 5. 22 第58回大会(西播支部のお世話になりました)
 - 7. 26~28 第19回臨海実習(西海先生に世話になりました)
 - 8. 23~25 北海道東部生物観察会(女満別空港集合, 釧路空港解散)
 - 8. 28 第2回理事・役員会, 60周年誌委員会(姫路)
 - 8. ~9. 地域自然定点調査
氷ノ山古生沼(8月17日) 甲子園浜(11月27日) 宝塚(9月18日) 藍那(8月10日) 福泊海岸(10月10日)
 - 8. 31 『兵庫生物』原稿締め切り
 - 10. 会長選挙公示
 - 12. 12 第8回研究発表会, 60周年誌委員会(神戸大学発達科学部)
 - 12. 31 会長選挙支部推薦締め切り

2005年

- 1. 22 金鹿酒造見学会(建先生のお世話)
- 3. 3 会長選挙投票・開票
- 3. 6 60周年記念誌打ち合わせ会議
- 3. 28 会計監査

大会資料3 2005年度(平成17年度)企画

2005年

- 『兵庫生物ニュース』No.63(4月25日 大会案内) No.64(6.20頃 大会報告) No.65(9.20頃 理事・役員会報告 研究発表会案内) No.66(12末 研究発表会報告)
- 近畿タンポポ調査 3~5月実施中
- 4. 3 第1回理事・役員会(新長田勤労市民センター)
 - 5. 7 60周年誌委員会
 - 5. 22 第59回大会(豊岡市コウノトリの郷公園 但馬支部のお世話になりました。)
 - 7. 17 60周年誌委員会
地域自然定点調査
氷ノ山古生沼(8月18,19日) 甲子園浜(10月1日) 宝塚(9月25日) 藍那(8月1日) ほか, 福泊海岸(10月22日)
 - 8. 18~19 夏期自然観察会(鉢伏・氷ノ山 但馬支部のお世話で)
 - 8. 27 第2回理事・役員会(姫路)
 - 8. 31 『兵庫生物』投稿締め切り
 - 12. 11 第9回研究発表会(神戸大学)

2006年

- 3. 会計監査

大会資料4 2005年度(平成17年度)兵庫県生物学会役員名簿

会 長	白岩 卓巳			
副 会 長	武田 義明	前田 常雄	栃本 武良	
事務局 長	奈島 弘明			
(事務局)	阪口 正樹	笹井 隆邦	鈴木 武	
事業部長	稲葉 浩介			
	(兵庫生物ニュース担当)	繁戸 克彦		
	(臨海実習担当)	西海 将雄		
	(企画担当)			
	北村 健	植田 吉則	甘中 照雄	
	酒井 達哉	田村 統	山本 一潔	
	横山 了爾			
	(生物ハンドブック担当)	山田 隆		
	後藤 統一	安本 直		
	(インターネット担当)	武田 義明		
編集部長	武田 義明			

(『兵庫生物』の編集出版担当)

中西 敏昭 梶原 洋一 丹羽 信彰
田中 俊雄 工 義尚 登日 邦明
大谷 剛 永吉 照人

会 計 工 義尚 谷本 卓弥
会計監査 上根 大輔 田村 統

選挙管理委員 岡村 はた 後藤 統一

地域自然定点調査支部委員

(神戸) 谷口 博 (阪神) 宇和 敏明
(東播) 片山 貴夫 (西播) 甘中 照雄
(但馬) 盛谷 浩 (丹有) 田井 彰人
(淡路)

60周年記念誌企画委員

(委員長) 平畑 政幸

(神戸) 丹羽 信彰 笹井 隆邦

(阪神) 中尾 義廣 (東播) 北村 健

(西播) 久後 地平 (但馬) 菅村 定昌

(丹有) 内垣内 義博 (淡路)

支 部 長 (神戸) 矢頭 卓児 (阪神) 北方 英二

(東播) 真野 育三 (西播) 宇那木 隆

(但馬) 前田 常雄 (丹有) 樋口 清一

(淡路)

支部選出理事

(神戸) 矢頭 卓児 深水 正和

(阪神) 北方 英二 田中 貞之

(東播) 真野 育三 上根 大輔

(西播) 宇那木 隆 田村 統

(但馬) 前田 常雄 菅村 定昌

(丹有) 樋口 清一 酒井 達哉

(淡路)

会長委嘱理事 藤本 義昭 西村 登

高岡得太郎 黒崎 史平

名誉会長 室井 綽

顧 問 阿蘇 達郎 安房 明 猪井 隆

上中 一雄 内海 功一 岡村 はた

金澤 龍 小嶋 良平 小林 拓郎

近藤昭一郎 渋野 龍二 清水 淳

清水美重子 杉田 隆三 高橋 匡

竹下 信 建 武 谷口 博

当津 隆 永吉 照人 西村 登

橋本 光政 浜田 史郎 東 敏男

平畑 政幸 藤本 義昭 古田 昌

前田米太郎 向山 俊作 森本 義信

山田 隆 横山 了爾

んぼを見学しながら次のような説明がありました。

①今年(2005年)9月下旬, 9羽のコウノトリを放鳥する予定。子育ての上手な2羽から生まれた雛が巣立っていく方式(ソフトリリース)とゲージから自然界へ4, 5羽を放す方式(ハードリリース)を考えている。

②3年前の8月5日, 雄のコウノトリが現れたがこのコウノトリはこの辺に定着している。今は4 km離れたコウノトリ増殖センター横の山に巣をかけている。こちらにも雌を2, 3羽放して気に入った雌とペアをつくらせる予定。

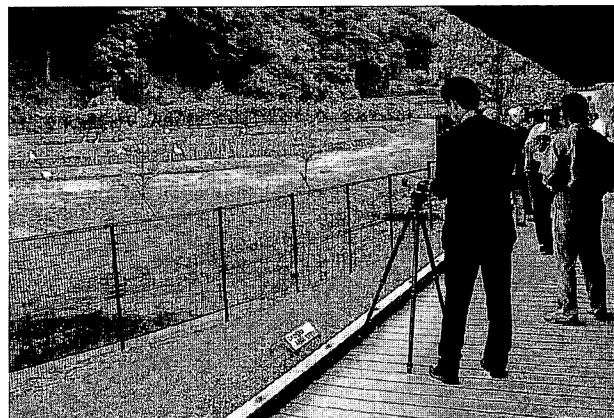
③減農薬・無農薬の転作田, 冬水田んぼ5 haを冬の餌場になっている。今年は18haの冬水田んぼを予定している。JAも「コウノトリと共生するお米」「コウノトリの舞い降りる田んぼで出来るお米」で売り出そうとしている。

④生き物も豊かになってコウノトリも棲める地域になってきた。多自然型河川工法もとり入れている。昨年の円山川の洪水で国は900億円をかけて改修しようとしている。この工事でコウノトリの生育にダメージが考えられるのでそのダメージを最小限にするように国土交通省と交渉する。

⑤ビオトープ管理もやっている。つくった1年目はトンボやゲンゴロウが出てきた。2年目, 3年目からは落ち着いてきた感じがする。アジアイトトンボ, シオヤトンボ, ニホンアカガエル, ウシガエル, アメリカザリガニも出てきた。平成15年には魚道も完成した。この辺の田んぼは平成11年に客土で土を上乘せした。そのため用水路と1.7mの落差が出来た。魚道では1日に2~3 cmサイズのタモロコが200匹, 他にドジョウ, ウナギ, コイ, モクズガニ, ミナミヌマエビも田んぼに上がってくる。

⑥豊岡では, 田んぼでお米を作るだけでなく, さまざまな生き物も生産している。豊岡の田んぼは食料を生産するだけではなく, 多様な生き物を生産し, 美しい景観や空気や水も作り出している。そのような田んぼ作りを進める農家を支えるために財政的な工夫もしている。

(事務局 阪口 正樹)



大会資料5 フィールドワーク報告

NPO法人コウノトリ市民研究所の事務局長生物学会但馬支部の稲葉一明さんと豊岡市コウノトリ共生課長の佐竹節夫さんからコウノトリの郷公園周辺の田